

目次

① はじめに	P1
② 印刷物について	P2
③ 読者の多様性を考慮する	P3
④ 印刷物の種類	P8
⑤ 印刷物作成のポイント	P9
【事例①】 文字の強調	P14
【事例②】 色の組合せ	P15
【事例③】 地図	P19
【事例④】 グラフ	P20
【事例⑤】 見出し(インデックス)	P22
【事例⑥】 申請用紙の色分け	P22
⑥ その他の情報媒体での配慮のポイントについて	P23

1

はじめに

北九州市では、市民の皆様には市政情報をお伝えするため、広報誌やパンフレット、冊子など様々な印刷物を作成しています。

読者は、高齢者や障害のある人、子ども、外国人など様々です。そのため、誰もがわかりやすい印刷物となるよう努めています。

近年、色を使って情報を伝えることが多くなっています。色の感じ方は一様ではないことを理解し、誰にとっても、情報が正確に伝わるよう配慮する必要があります。

本書は、よりわかりやすい印刷物を作成するためのポイントや、色覚に配慮した「カラーユニバーサルデザイン」の必要性とその取組方法をまとめたヒント集です。

これから印刷物を作成する際に、本書を参考にいただき、少しでもわかりやすい印刷物を目指していただくことを願っています。

ユニバーサルデザインとは、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。対象は、施設や製品にとどまらず、教育や文化、情報提供に至るまで多岐にわたります。

(参考) ユニバーサルデザインの7原則

- ①どんな人でも公平に使えること
- ②使う上で自由度が高いこと
- ③使い方が簡単で、すぐに分かること
- ④必要な情報がすぐに分かること
- ⑤うっかりミスや危険につながらないこと
- ⑥身体への負担が小さいこと(弱い力でも使えること)
- ⑦接近や利用するための十分な大きさと空間を確保すること

2

印刷物について

印刷物について、「読みにくい」「わかりにくい」と言われたことはありませんか？

文字が読みにくい

- 題名は大きくて読みやすいが、本文の字が小さい。
- 説明が多い。
- 注意書きの文字を大きくしてほしい。
- 無駄な装飾文字が目につく。

内容がわかりにくい

- 具体性に欠け、要点がわからない。
- 難しい用語や専門的な用語、カタカナ語が多い。
- 文章が長く、何が言いたいのかわからない。
- 見出しから内容がわからない。

色使いが気になる

- 強調したい箇所がわからない。
- 色が多すぎてどれが重要かわからない。
- 背景色と文字の色が同系で読みにくい。

興味をもてない

- 文字が多く、段落や行間などの余白がない。
- イラストや写真など興味を持てる工夫がない。

問い合わせ先がわからない

- 問い合わせ先が掲載されていない。
- 主催者・発行元の記載がない。
- 詳しい情報が欲しいが、ホームページ等のURLが掲載されていない。